

# 令和3年度学校評価結果

R3年度 前期(7月)

アンケート項目番号	重点目標	評価の観点	(A評価を記載)	担当	3者アンケート結果				結果の考察	判定	評議員評価	今後の取組	
					評価者	A	B	A+B					
教1-① 児6 児7	1	授業 (主体的・対話的な授業)	「三角ロジック」を意識した話し合いを指導している	「三角ロジック」を意識して話す児童の割合(85%以上) 1-①	研究	教師	42.9	28.6	71.5	自分の考えの話し方のパターンとしては「伝える三角」が意識されている。「自分の考えと比べて相手の考えを聞く」という部分も、「〇〇さんと同じで(ちがって)」という表現も使いながら発表ができています。	B	A 60.4 A+B 92.7	CD評価の児童に対しての取り組みに関して、どの程度までできているかを見極めていく。考えはあるがどう話して(書いて)よいのかわからない児童には、模範解答などを参考にさせたりして考えをまとめる方法を指導する。また、考えが全くもてない児童には、考えをもつ手掛かりになるラインを引いたり、図に描いたりする方法を指導する。
			相手に伝わる声で話したり、自分の考えと比べて相手の考えを聞いたりしていますか	できている⑥	杉本	児童	71.4	25.0	96.4				
			自分の考えをわかりやすく伝えていきますか。(三角で伝えようとしていますか。)	できている⑦		児童	60.7	35.7	96.4				
			平均	58.3	29.8	88.1							
教1-② 保2-1 児10	1	授業 (深い学びへの工夫)	深めの発問リーフレットを活用し「★思考を深める発問」を設定している。	授業の中で設定している(80%以上) 1-②	研究	教師	28.6	42.9	71.5	深めの発問リーフレットの活用場面があまり進んでいない。具体的な活用場面が固定化されている。	B		深めの発問リーフレットを活用の仕方について、校内研で他校の実践などを紹介し、授業の中で使っていく。
			お子さんは、授業が分かると言っている。	できている③	杉本	保護者	44.8	41.4	86.2				
			授業はわかりやすいですか。	できている⑩		児童	78.6	21.4	100.0				
			平均	50.7	35.2	85.9							
教1-③ 保4	1	基礎学力の確実な定着	朝学習を計画的に行うことができています。	児童自身がまとめや振り返り(適用問題)を行った授業(90%以上) 1-③	研究	教師	83.3	16.7	100.0	基礎基本の定着のために計画的に朝学習を利用している。	A		基礎基本の定着に関しては、漢字を苦手としている児童が多い。新出漢字の一度だけの指導にらずに繰り返し漢字を書く機会を作っていく。
			学校は、計算や漢字等、基礎基本の定着を図るために授業の工夫を行っている。	できている⑤	杉本	保護者	44.8	41.4	86.2				
			平均	64.1	29.1	93.1							
教1-④ 保6	1	学習規律の徹底	45分の授業時間を確保するタイムマネジメントを行っている。	確保している 1-④	研究	教師	57.1	42.9	100.0	タイムマネジメントや姿勢、態度などの学習規律を守れている。	A		引き続き、学習規律を徹底して保護者にもその様子を周知する。
			学校は、子どもたちに正しい姿勢、話す・聞く態度など学習規律の指導を行っている。	できている⑥	杉本	保護者	41.4	51.7	93.1				
			平均	49.3	47.3	96.6							
教1-⑤ 保3 児9	1	考えを書かせる指導	「伝える三角」をもとに自分の考えを書く指導をしている。	している 1-⑤	研究	教師	33.3	50.0	83.3	「伝える三角」をもとに書くことも進んで行っている。自分の考えを書く時には根拠や理由が必要であるということを理解し、ノートに書けるようになってきている。	A		条件を設定して書かせることが次の課題である。条件を正しく理解し、条件に合った文が書けるようにするために、書き方の手本を参考にさせたり、例題を解いたりして身につけられるようにしていく。
			学校は、考えを書く指導を行っている。	できている④	杉本	保護者	48.3	41.4	89.7				
			自分の考えをノートに書いていますか。	できている⑨		児童	75.0	25.0	100.0				
			平均	52.2	38.8	91.0							
教1-⑥ 保5 保2-2 児1 児2	1	家庭学習の習慣化	自学も含め、学年や個人に応じた(内容・時間)家庭学習の指導をしている。	している 1-⑥	研究	教師	83.3	16.7	100.0	宿題を忘れる児童は固定化されていると思われるため、個別指導が必要である。	A		宿題忘れに対してはこれまでも指導をしている。今後も粘り強く指導を続けていく。家庭学習の内容も工夫し、基礎基本の定着や読書の推進に努めていく。
			学校は、児童が家庭で勉強する習慣が身につくよう指導している。	できている⑥	杉本	保護者	44.8	51.7	96.5				
			お子さんは家庭学習に取り組んでいる。	できている2-①		保護者	31.0	48.3	79.3				
			宿題を忘れずにしていますか。	できている①		児童	64.3	32.1	96.4				
			家で学年×10分程度(1年生は20分、2、3年30分)の学習をしていますか。	できている②		児童	71.4	25.0	96.4				
平均	59.0	34.8	93.7										
教1-⑦ 児11	1	外国語活動の充実	「Can-doリスト」をもとに児童のつきたい力を明確にし、授業の中で評価を行う。	90%以上の授業で行った 1-⑦	外国語	教師	100.0	0.0	100.0	「Can-doリスト」に沿った評価を行うことができています。また、各Unitで身につけたい表現を個人・ペア・全体など様々な形態で反復して使わせることで、児童自身が進んでコミュニケーションをとうろうとする意欲につながっている。	A		今後も「Can-doリスト」を基に、各Unitのねらいを明確にして学習計画を立てる。また、ALTとの連携を図り、活動内容の充実にも努めていく。
			外国語活動では、習った英語を使って進んでコミュニケーションをとうろうとしていますか。	できている⑩	古田	児童	64.3	32.1	96.4				
			平均	82.2	16.1	98.2							

教1-⑧ 児14	ICTの活用	1人1台端末などICT機器を活用している。 タブレットやパソコン、大型テレビで授業をするとわかりやすいですか。	積極的に活用している(週1回以上) 1-⑧ できている⑭	情報 浜口	教師 児童 平均	50.0 85.7 67.9	50.0 3.6 26.8	100.0 89.3 94.7	一人一台タブレットが支給によりICTの活用する場が100%になった。GIGAスクール構想によりICTを活用することが多くなる。まだ活用を始めたばかりなのでいろいろと模索していく段階にある。そのため教師間で使い方の理解を深めていかなくてはならないと感じている。	A		タブレットが入り機器の環境が整うので、教師と児童共に、使いながら操作方法を覚えていく。ICTサポートを授業に活用することで、情報教育や機器の操作方法への理解を深める。	
教2-① 保13	道徳科の授業の充実	児童が自らの成長を実感できるよう、研究の重点を意識した授業改善に取り組んでいる。 学校は道徳授業の様子を保護者に伝えている。	月3回以上は取り入れている 2-① できている⑭	道徳 野川	教師 保護者 平均			0.0 48.3 48.3	96.6 96.6 96.6	今年度は、各学期に1回ずつ学級便りの中で道徳の授業について紹介するコーナーを設定した。学級便りは必ず保護者が目を通すので、今後も継続していく。	A A A+B	48.8 89.2	11月の学校公開週間と2月の授業参観で各学級1回道徳の公開授業を予定している。実際の授業を保護者に見てもらうことで、各家庭でも話題として取り上げてもらえることを期待したい。
保8 保2-3 児4 保9 児8	基本的な生活習慣の確立	学校は、児童が早寝により睡眠時間の確保ができるための取組を行っている。 お子さんは早寝により睡眠時間を確保している。 早寝(10時前)・早起き(7時前)をしていますか。 学校は、食育や歯磨きなど、健康についての指導を行っている。 正しい姿勢で学習(生活)していますか。	できている⑧ できている2-③ できている④ できている⑨ できている⑧	保健 英	保護者 保護者 児童 保護者 児童 平均	44.8 34.5 62.1 72.4 39.3 50.6	48.3 55.2 27.6 27.6 46.4 41.0	93.1 89.7 89.7 100.0 85.7 91.6	睡眠や姿勢など規則正しい生活ができていない児童が多い。	A			すぐぐんチェックやメディア週間、生活目標の取り組みを通して個別や学年での現状を把握しながら、集団と個別に合わせた指導を行う。また、特に気になる児童には休日や、下校後の過ごし方について一緒に考え、保護者と協力して児童の生活を見直す機会を作る。
保2-6 児5		お子さんは約束を決めてメディアと付き合っている。 おうちのひとと相談し、約束を決めて、ゲームやテレビなどのメディアにふれていますか。	できている2-⑥ できている⑤		保護者 児童 平均	17.2 60.7 39.0	37.9 25.0 31.5	55.1 85.7 70.4	メディアについての全体評価は低い。児童のA評価は約6割いるため、できている児童とできていない児童の2極化が考えられる。				C
教2-② 保7 保2-5 児12	あいさつの習慣化	どこでも元気に先あいさつをするよう指導している。 学校は、心を伝えるあいさつができる子になるよう取り組んでいる。 お子さんは家庭や地域でのあいさつを行っている。 気持ちのよいあいさつしていますか。(先あいさつ、目をみてあいさつ、元気のよいあいさつなど)	いろいろな場面で指導している 2-③ できている⑦ できている2-⑤ できている⑫	生指 古田	教師 保護者 保護者 児童 平均	75.0 55.2 41.4 72.4 61.0	25.0 34.5 41.4 27.6 32.1	100.0 89.7 82.8 100.0 93.1	1学期にすぐぐんチェックの結果から家庭での挨拶は概ね定着していることが分かった。しかし、当アンケートの結果では82%に留まっている。保護者以外の方に対する挨拶が習慣化されていないと考えられる。	A			9月の生活目標の取り組みで地域での挨拶を促していく。そうすることで、地域での挨拶の習慣化を目指す。
教2-③ 保10 児13		授業の中で、どの子にもよさを認める、ぬくもりのある指導をしている。 学校は、いじめや児童の問題などに、適切に指導・対応している。 なかよし班の仲間や友だちと仲よく助け合っていますか。	どの子の良さも認める指導をしている 2-③ できている⑩ できている⑬		生指 古田	教師 保護者 児童 平均	42.9 34.5 55.2 44.2	57.1 48.3 37.9 47.8	100.0 82.8 93.1 92.0				いいところ見つけ等の取り組みが、児童の評価につながっていると考えられる。 学校が行っている人権に関する指導や取り組みを保護者へ発信できていないことが、保護者評価を82%に留めていることにつながっていると思われる。
保11	心の教育	学校は、地域の伝統や文化を大切にし、児童の豊かな心を育成するための取組を行っている。	できている⑫	生指 古田	保護者 平均	41.4 41.4	41.4 41.4	82.8 82.8	前期は、でんでこ太鼓など伝統にふれる活動を行うことができなかった。しかし、保護者の多くは、前年度までに行っている太鼓発表会などを知っていたため今回の結果になったと考えられる。	B		運動会での笠野つ子音頭や太鼓発表会を通して、児童に地域の伝統・文化を受け継いでいる意識をもてるようにする。また、笠野つ子音頭では、保護者にも参加してもらい、学校とともに笠野地区の文化を伝える役割を担ってもらおう。	
教2-④	異学年交流	なかよし班活動を通して、児童の思いやりある心を育てている。	なかよし班活動に進んで参加しており、児童の心も育っている 2-④	特活	教師 平均	62.5 62.5	25.0 25.0	87.5 87.5	コロナ禍で活動の内容に変更や制限があるものの概ね予定した活動を行うことはできている。日々の常時活動である清掃の時間は、高学年児童が低学年児童に優しく教える姿がよく見られる。	B		2学期は運動会練習で異学年交流の時間が増える。高学年児童にはリーダーとしての自覚を持たせ、下級生をまとめるという意識を持って行動させる。また、2~4年児童に対しても、積極的に下級生に声掛けをしていくよう教師からも促していく。	
教2-⑤ 保2-4 児3	読書活動の推進	図書館利用計画に基づく活用を行っている。 お子さんは親子読書、週末読書など家庭での読書に取り組んでいる。 家庭で読書(親子読書、週末読書)をしていますか。	90%以上は活用している 2-⑤ できている2-④ できている③	読書 河本	教師 保護者 児童 平均	50.0 27.6 86.2 54.6	50.0 48.3 6.9 35.1	100.0 75.9 93.1 89.7	子どもも教師も親子読書・週末読書に取り組む意識は高い。また、ほとんどの保護者が月1回の親子読書に関わってくれている。しかし、子どもが読書に取り組んでいないと感じている保護者が数名おり、週末読書の取り組みなどをもっと知らせていく必要がある。	B		学校の読書の取り組みを知らせるお便りを出し、家庭での読書活動の協力を仰ぐ。担任は、個別の「私の本だな」の確認をするなど、週末読書や親子読書が確実に実行されるよう指導をする。図書委員は、週2回の図書の貸し出しを全員が行っているかを確認し、呼びかける。	

2 豊かな心とたくましく生きる力の育成

教2-⑥ 児15	体力の向上	1校1プランを意識した運動（長座体前屈、持久走）を授業等で取り組んでいる。 進んで体を動かしていますか。	週2回以上取り組んでいる2-⑥	体育 浜口	教師 児童 平均	33.3 72.4 52.9	50.0 20.7 35.4	83.3 93.1 88.2	1校1プランを意識した運動は行えなかった。しかし、「外遊びデー」や週に1度の「石川スポーツチャレンジ」に取り組むことで運動をする機会を増やすことができた。	B	授業の導入には1校1プランを意識した運動を取り入れる。例えば、「ボール運動」の単元の際は、ボールを使って柔軟体操を行う。「外遊びデー」や「石川スポーツチャレンジ」は内容に偏りが出ないように、場所や内容を考える。	
教2-⑦	自然とのふれあい	「自然ふれ合いタイム」や各教科における自然環境の積極的な活用。	学級で月2回以上の活用をしている2-⑦	教務 木田	教師 平均	33.3 33.3	66.7 66.7	100.0 100.0	天候に恵まれ、自然ふれ合いタイムは1学期2回(5月・6月)実施できた。また、授業でも(生活科など)活用した場面があった。	A	2学期も3回(9~11月)は実施したい。また、授業における活用も促したい。	
教3-① 保2	3 家庭・地域と連携した信頼される学校づくり	地域に開かれた教育課程	保護者や地域人材を日常的な授業や行事、体験活動などで活用している。 学校は、保護者と連携・協力した学校づくりを行っている。	計画に従い活用している(90%以上)3-①	教頭	教師 保護者 平均	71.4 34.5 53.0	28.6 58.6 43.6	100.0 93.1 96.6	コロナ禍ではあるが、感染対策を行った上で、PTA総会、授業参観、避難訓練、保健指導、奉仕作業など、すべての行事を中止することなく行うことができた。	A 55.7 A+B 97.3	今後も新型コロナウイルスの感染対策を十分に行いながら、カリキュラムマネジメントに基づいて、保護者や地域人材、行事、体験活動において、積極的に活用していく。
教3-② 保1		保護者・地域との連携	ホームページや通信、連絡帳等を通して学校の様子を知らせている。 学校は、教育活動の様子をわかりやすく保護者に伝えている。	知らせている3-②	校長	教師 保護者 平均	71.4 44.8 58.1	28.6 55.2 100.0	100.0 100.0 100.0	今年度はコロナ感染対策をとりながら、予定通り学校行事が行われている。保護者にも来校していただき、子どもたちの様子を参観してもらっている。また、学校HPや学校便り等で教育活動の様子を伝えることができた。	A	2学期以降もコロナ感染対策をしっかりとりながら、学校行事を進めていき、保護者にも来校していただき、参観してもらう。普段の学校の様子なども学校HPや学校便りを通じて保護者に伝えていく。
教3-③ 保12 保2-7		危機管理	危機管理意識を持って児童への指導を行っている。 学校は、避難訓練や交通安全指導など、安全管理への対応が取られている。 お子さんは安全に登校し、不審者や事故から身を守ろう気をつけている。	行っている3-③	教務 木田	教師 保護者 保護者 平均	88.9 55.2 24.1 56.1	11.1 44.8 62.1 39.3	100.0 100.0 86.2 95.4	交通安全教室、避難訓練や不審者訓練等を、計画に沿って実施し指導できた。	A	今後も年間計画に則り、避難訓練を実施していく。また、安全にかかわる学校の取組をHP等で保護者に発信していく。
教3-④	4 学校PDCAサイクルを運営	取り組みの改善	PDCAサイクルを意識して取組を提案し、改善している。	提案、改善の取り組みをしている3-④	教務 木田	教師 平均	55.6 55.6	44.4 44.4	100.0 100.0	記憶が新しいうちに行事後の振り返りを記入するように、呼び掛けた。	A 55.6 A+B 83.4	C4tでの振り返り記入を定例化していくことで、次年度に、あるいは関連行事に活かしていく。
教3-⑤	働き方	勤務時間を意識した効率的な働き方をしている。	1カ月の時間外勤務時間の平均が45時間以下3-⑤	教頭	教師 平均	55.6 55.6	11.1 11.1	66.7 66.7	校務支援システムの活用や業務の効率化を進めてきた。また、18時30分に帰宅を促すチャイムを入れ、19時以降学校に残る場合は、管理職に報告するようにした。しかし、1学期は行事などの関係もあり、十分な成果につながらなかった。	C	A 2学期以降は、さらなる業務の効率化の工夫・改善に努めるとともに、職員の意識改革を進め、勤務時間を意識した効率的な働き方を促していきたい。	